



V 視察報告

| |
|---|
| 1 視察校 |
| 広島県立福山北特別支援学校 |
| 2 視察目的 |
| 広島県立福山北特別支援学校では、組織的なカリキュラムマネジメントに取り組んでいる。専門性の充実と、業務改善の両側から取り組んでおり、本校の研究テーマや問題意識から学ぶべきところが多いと考えた。本校は、数年後に校舎の改築を控えており、今後地域での共生社会の中核地としての役割を果たしていかなければならない。学校がどのように地域に開かれているか学ばせていただいた。 |
| 3 視察内容 |
| <p>(1) 組織的な働き方について</p> <p>広島では、グローバル化する 21 世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築として『学びの変革』アクション・プランを作成されている。このアクション・プランを踏まえて、「児童生徒が、社会の中で、主体的にたくましく生きていく力を培う」を学校教育目標として学校経営計画を立てている。160 名を越える教職員が学校教育目標の達成を目指して、それぞれの職務に取り組めるよう、組織的に学校経営をしている。学校経営計画の評価指標として数値目標を掲げており、目標に向かってどのように取り組むのかを行動計画として明文化されており、目標の共有をしやすくする工夫があった。</p> <p>(2) 施設設備について</p> <p>6 年前に新校舎に移転、開校された。旧県立高校の校舎が使用されており、広大な敷地の中に、カフェや作業棟、農場、洗車場など作業学習の設備があり、大変充実していた。昨年度は、特別支援学校技能検定の 5 分野中 4 分野の会場になっている。カフェは高等部の作業学習だけでなく、全校の生徒が関われるように、各学部・学年が交代で作品展示をするなどの工夫があった。</p>  <p>(3) 進路について</p> <p>企業との連携に重点を置かれており、企業の参観日、新規職場開拓、福山北就労支援会議、広島県中小企業家同友会との連携などに取り組んでいる。保護者の参観日とは別に企業の方に来ていただく日を設けて、高等部 3 年生による学校紹介や職場実習の報告などを行い、進路指導の取組について知ってもらう場を設定していた。福山北就労支援会議では、企業の方を対象に障害者雇用をしたことによる発見や新たな工夫、会社の変容などを共有し、より前向きに障害者雇用を捉えていただける機会としていた。</p> |
| 4 本校で生かしていきたい視点 |
| <p>(1) 教職員が共有しやすい、目標設定とその行動計画を設定すること</p> <p>(2) 設備の多様な利用方法を考え全校生徒が、関われる仕掛け作りの工夫をすること</p> <p>(3) キャリア教育の視点をもった生徒の取組を、地域、行政、福祉、企業等、多くの関係者に知ってもらうこと。</p> |


| |
|--|
| <p>1 視察校</p> |
| <p>広島県立三原特別支援学校</p> |
| <p>2 視察目的</p> |
| <p>作業学習を中心とした教育課程、地域社会と協働した学習の仕組みや地域との連携の仕方、卒業後の自立と社会参加を目指した教育内容について学ぶため、訪問させていただいた。</p> |
| <p>3 視察内容</p> |
| <p>(1) 教育内容について</p> <p>高等部の作業学習は1年時に「サービス」「農業・食品」「クラフト」「布工」「木工」すべての作業種を経験して、2年生以降は作業種を選択し、1年間継続して同じ作業に取り組んでいる。「サービス」では作業スキルを高めることを重視してきたが、その作業スキルは何のために高めたのか、何に結びつくのかを生徒が考えた結果、人のためになることをやってみたいという結論に至った。人のために役立つことを考えたところ、校内で地域や企業、保護者向けに開いていたカフェ「いこい」を発展させ、三原の地域を明るくしたいという生徒の思いから地域でカフェを開くという活動に発展した。生徒が主体となってコーヒーのブレンドを考えたり、お菓子を製造したりしている。失敗やうまくいかないことも含めて学びと捉え、教員は一步引いて指導をしている。週2日は1日をとおして作業学習が設定されており、発達段階が大きく異なる生徒同士が共に分業制で作業に取り組んでいる。常識的な態度や作法や挨拶や人との関わり方を学ぶ「三原検定」を実施し、進路実現や社会参加できる生徒を育てている。</p> <p>(2) 施設設備について</p> <p>作業学習を行う本格的な施設設備が整っている。特に「農業」を行う広大な農場や、実際にカフェで提供するお菓子を製造できる衛生面が整った調理室が特徴的であった。</p> <p>(3) 地域との交流について</p> <p>生徒自身が地域のショッピングセンターに依頼して、期間限定のカフェを開店する計画を立て実行していた。またコーヒーの淹れ方を学ぶために、外部講師を招き本格的な指導を受けている。カフェの開店に向けて生徒が地元のラジオ番組に出演して地域の人に宣伝する取組も行われていた。地元企業や事業所に生徒のことを知ってもらうために、「企業等懇談会」も実施している。</p> |
|  |
| <p>4 本校で生かしていきたい視点</p> |
| <p>(1) 校訓である礼儀・感謝・挑戦を基に、育てたい児童生徒像を具体的に考え、小、中、高等部と系統性のある教育目標が生まれ、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」の3観点から、学部別につけたい力がわかりやすく整理されている点</p> <p>(2) 人のため、地域のために取り組む作業学習や、三原検定のような卒業後に役立つスキルを身につけられるようなシステムの構築</p> |

| |
|---|
| <p>1 視察校</p> |
| <p>広島県立庄原特別支援学校</p> |
| <p>2 視察目的</p> |
| <p>国立特別支援教育総合研究所の研究協力校としての経験を生かし、庄原式カリキュラム・マネジメントで教育課程の改善に取り組んでいる学校である。「児童生徒が自ら考え、自ら動く授業づくり」を基礎基本として位置づけ、それを応用・発展させる「地域社会と連携した実践的学習」を行っている。新学習指導要領に向けた具体的な取組について学ぶため、訪問させていただいた。</p> |
| <p>3 視察内容</p> |
| <p>(1) 庄原式カリキュラム・マネジメントについて</p> <p>庄原式カリキュラム・マネジメントでは、学習指導略案による学習評価や単元計画による単元計画を土台としながら教育課程の改善について組織的に取り組まれている。</p> <p>学習指導略案には、評価の観点や学習指導要領の教科を記入する欄を設けている。評価の観点では、目標が3観点のどの観点到当たるのかを記入する形式になっている。教科については、学習活動の欄に記入するようになっている。</p> <p>単元計画では、単元計画を作成する前段階に単元構成表を作成していたが、12年間の単元の系統性がわかりづらいことや、各教科等を合わせた指導において教科を全て網羅しているかわかりづらいなどといった課題から「単元系統表」を新たに作成している。単元系統表は単元構成表を基に「単元でつけたい力、含まれる教科」を示している。また、単元が終わるごとに、単元計画評価表に評価を蓄積している。</p> <p>上記のような内容を教育課程検討会議の資料としながら教育課程の改善に取り組んでいるため、毎時間の授業の評価が教育課程の評価ともつながっている。現在は、授業改善と教育課程改善の評価を継続的に取り組みながら、個々の授業の達成目標を明確にする取組として「ルーブリック評価」についても研究を進めている。</p> <p>(2) 地域社会で主体的に生きる子どもの育成に向けて</p> <p>高等部の生徒と県立広島大学の学生とで連携し国営の公園の未開発部分を開拓する「ゆるるの森づくり」事業を行い、森の感謝祭で生徒が製作したものを披露したり、小学部の児童や中学部の生徒も遊びで使ったりして楽しむ場となっている。生徒と大学生と一緒に活動することで障害理解にもつながっている。その他にも、中学部では、お茶やお花の講師や、それらを活用したおもてなし等、地域との関わりももたれている。</p> |
| <p>4 本校で生かしていきたい視点</p> |
| <p>(1) カリキュラム・マネジメントの組織的な取組方法</p> <p>(2) 授業と単元計画の評価について</p> <p>(3) 基礎的な力を地域活動で発展させ、主体的な子ども達を育てる授業展開</p> |



| |
|--|
| <p>1 視察校</p> |
| <p>横浜市立若葉台特別支援学校（知的障害教育部門 高等部）</p> |
| <p>2 視察目的</p> |
| <p>横浜市立若葉台特別支援学校では、地域との多様な連携を行い、社会に開かれた教育課程を編成している。併設のコミュニティハウスにおいて、その施設設備を活用した日常的な地域社会との連携協働のあり方について学ぶほか、卒業後を見据え、キャリア教育と地域連携を両輪にした教育内容についても学ぶため訪問させていただいた。</p> |
| <p>3 視察内容</p> |
| <p>(1) 地域連携について</p> <p>「学校づくりは街づくり、街づくりは学校づくり」という地域のスローガンの中で、学校では、地域をもう一つの教室として考え、地域連携を進めている。街での買い物や出前授業等、校内外で地域とつながりのある授業に多様に取り組んでいる。また合同防災訓練、地区センター祭、若葉台文化祭、駅伝などの地域行事には、地区の一員として貢献的な役割を期待され、継続的に参加している。地域の施設で行う現場実習のほかに、校内実習も地域とつながりのある「パン工房」「オフィスサポート」「ビルメンテナンス」の取組を展開している。見学させていただいた実習中の生徒の様子からは、地域の方とのやりとりをとおして、やりがいと自信を積み重ねてきていることが窺えた。</p> <p>(2) 施設設備について</p> <p>併設のコミュニティハウスは、図書室や文化教室などで地域の方が日常的に学校を訪れている。地域のニーズに応える形で開設されたカフェでは、パン販売や接客について地域の方から率直な声が届けられ、貴重な学びとして取り組んでいる。</p> <p>(3) 進路指導について</p> <p>高等部ではキャリアデザインシートを活用し、現場実習と学校での学びを繋げ、自己理解、自己選択など卒業後に必要な力をつけていくシステムを構築している。キャリアカウンセリングやキャリアガイダンスという授業において、様々な形式の相談会をとおして自分の課題を明確化させ、実習や学習を主体的に学べる取組を進めている。</p> |
|  |
| <p>4 本校で生かしていきたい視点</p> |
| <p>(1) 地域をもう一つの教室として捉え、社会貢献や相互有益となる視点をもった地域とつながりのある授業の多様な展開</p> <p>(2) コミュニティスクール等を活用した地域連携の組織的な運営と、地域のニーズに合った施設設備やその活用における日常的な地域との連携協働</p> <p>(3) 主体的なキャリアデザインによる進路指導のあり方</p> |

| |
|---|
| <p>1 視察校</p> |
| <p>静岡県立掛川特別支援学校</p> |
| <p>2 視察目的</p> |
| <p>掛川市が「健康医療日本一のまち・掛川」を実現させることを目的として、地域医療、保健、福祉、介護、教育に関する施設を一体的に整備する希望の丘プランの一つとして開校された。数年後に改築を控える本校が今後共生社会の中核地としての役割を果たす上で、地域社会と連携協働した授業づくりや、カリキュラムマネジメント、他機関との連携協働を図る取組について学ぶため、訪問させていただいた。</p> |
| <p>3 視察内容</p> |
| <p>(1) 教育内容について</p> <p>小学部は生活単元学習を毎日帯状に位置づけ、その前後に教科別の指導がある週程である。中学部は作業学習、生活単元学習、総合的な学習の時間を月ごとに帯状に位置づけている。高等部は作業学習を中心とした教育課程である。肢体不自由部門は自立活動を中心とした教育課程と各教科等を合わせた指導中心の教育課程を編成している。高等部の作業学習は、自主生産の作業が週2日、外部委託の作業が週1日、残りの2日は時期によって職業科、家庭科、総合的な探究の時間を行っている。</p> <p>(2) 施設設備について</p> <p>県産材の木がふんだんに使用された暖かみのある校舎である。各学部に2部屋ほど多目的ルームが割り当てられており、合同授業などに活用されている。災害時にも対応可能な常時電気が通っているコンセントが設置された部屋や、防災用の倉庫があり、倉庫には児童生徒の防災リュックに入った食料と衣服の3日分が備蓄されている。</p> <p>(3) 地域との交流について</p> <p>希望の丘エリアで合同の防災訓練が行われている。近隣する東病院の納涼祭では、高等部の生徒が作業学習で製作した製品を販売したり、病院の理学療法士が学校に訪問されたり、地域の方がグラウンドゴルフやユニカール（室内の専用カーペット上でできるカーリング）などを教えに來られたりと常に周辺の施設と連携している。</p> <p>エリアの病院や保育所に介護補助や清掃員として就職した卒業生もいる。希望の丘エリアの事業所連絡会や運営協議会を年6回実施し、そこで各施設の取組や施設同士の連携について話し合われている。</p> |
| <p>The map shows the layout of the school campus and surrounding area. Key locations include: <ul style="list-style-type: none"> 教育 (Education): 希望の丘特別支援学校 (Kaihou no Oka Teishien Gakko), 希望の丘小学校 (Kaihou no Oka Shoukoukou), 希望の丘中学校 (Kaihou no Oka Chuugakko). 医療 (Medical): 東病院 (Higashi Byouin). 福祉 (Welfare): 杉谷2号公園 (Sugitani 2-gou Kouen), ひだまり児童センター (Hidamari Jidou Center). 交通 (Transportation): 希望の丘通り (Kaihou no Oka Dori), 交通安全対策 (Traffic Safety Measures). その他 (Other): 希望の丘公園 (Kaihou no Oka Kouen), 希望の丘児童館 (Kaihou no Oka Jidoukan). </p> |
| <p>4 本校で生かしていきたい視点</p> |
| <p>(1) 社会に開かれた教育課程を目指し、小・中・高の系統性のある教育課程の編成、各学部のつけたい力の育成、卒業後を見据えたカリキュラム等の検討を行っていくこと</p> <p>(2) 災害時に備えた防災教育を推進し、児童生徒の防災意識を育てること</p> <p>(3) 地域社会と連携協働する授業や取組を通して、児童生徒が豊かに生きて行くための力を育むとともに、地域社会に学校の教育内容を発信していくこと</p> |

| |
|---|
| <p>1 視察施設</p> |
| <p>静岡県掛川市地域健康医療支援センター 中部ふくしあ</p> |
| <p>2 視察目的</p> |
| <p>掛川市が「健康医療日本一のまち・掛川」を実現させることを目的として策定した「希望の丘プラン」の一つとして設置されており、地域医療、保健、福祉、介護の拠点となっている。また、様々な専門職が配置され、多職種で連携を行い地域の方々への総合的な支援をしている。本校が今後地域の共生社会の中核地としての役割を果たす上で、教育、福祉、医療、介護等の連携について学ぶため訪問させていただいた。</p> |
| <p>3 視察内容</p> |
| <p>(1) ふくしあの概要について</p> <p>掛川市が開所した地域健康医療支援センターである。掛川市では、地域住民が住み慣れた地域で安心して尊厳のあるその人らしい生活を継続することができるように、医療や介護などの公的なサービスのみならず、地域活動やボランティアによるサービスなど多様な社会資本を本人が活用できるような地域の支援体制の構築を目指している。市内には、5カ所に「ふくしあ」が設置されており、市の中部地域を担っているのが「中部ふくしあ」である。子育て、福祉、医療、介護等の垣根のない支援をするため、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会、訪問看護ステーションの執務室はワンフロア化されており、日常的に連携が行えるようになっている。</p> <p>個別のケース対応については、関係各課、関係機関等、多職種参加によるケース会議や地域ケア会議を開催し、支援の方向性、役割分担、地域の課題についても検討がされている。</p> <p>(2) 希望の丘エリアの連携について</p> <p>希望の丘エリアとは、掛川インターチェンジ近くの一体に介護老人保健施設、生活介護事業所、特別支援学校などが整備されたエリアである。希望の丘事業者連絡協議会、希望の丘運営委員会にて、各施設等の取組について情報共有がされている。また、桜コンサート、もみじコンサートや希望の丘防災訓練等、希望の丘事業者と地域で行う事業が行われている。</p> <p>(3) 掛川市発達相談支援センター「のびる～む」について</p> <p>発達相談支援センターとして、「中部ふくしあ」と同施設内に平成30年に開設された。子どもから成人まで、発達に不安を抱える本人や家族の相談を受け、関係する機関と連携し支援を行っている。</p> <p>希望の丘エリアの放課後等デイサービスの施設を利用し、発達に不安を抱える子どもと家族が遊べる「のびっこ」という交流スペースを運営している。</p>  |
| <p>4 本校で生かしていきたい視点</p> |
| <p>(1) 地域の関係機関へ本校の教育内容を発信していくこと</p> <p>(2) 児童生徒の豊かな生活のために行政、福祉、医療等と適切な連携を行っていくこと</p> |